10月の基調判断　緩やかな持ち直し

製造業	➡	緩やかな持ち直し	住宅着工	➡	弱い動き
観光	➡	増加基調にある	公共工事	➡	横ばい
小売店販売	➡	底堅く推移している	雇用	➡	弱含み
乗用車販売	➡	持ち直している	企業倒産	➡	増加基調にある

［前月の基調判断からの変化］　⬆引き上げ　➡据え置き　⬇引き下げ

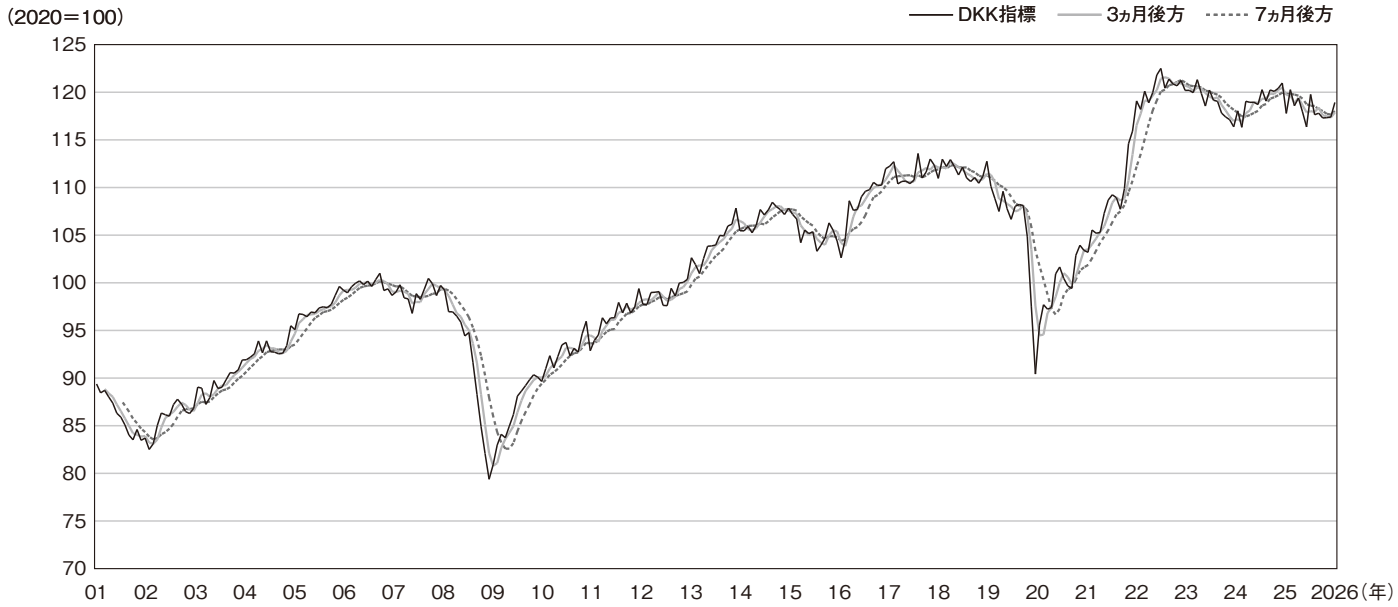
注）1．基調判断は足元の状況
2．小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

大分県の主要経済指標の動き

	2025.8	9	10	11	12	2026.1	2	3	4	5	6	7	8
鉱工業生産指数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	—
小売店販売額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○
乗用車・軽乗用車販売台数	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	○	○	●
新設住宅着工戸数	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●
公共工事保証請負額	●	○	○	○	○	●	●	△	●	●	●	○	●
ホテル宿泊客数	○	○	○	○	○	●	○	○	●	○	○	○	○
新規求人数	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
企業倒産件数	●	△	○	●	●	△	●	○	○	○	●	●	●
プラス指標の割合	37.5	50.0	62.5	50.0	50.0	25.0	37.5	62.5	50.0	62.5	37.5	50.0	28.6

注）1．指標は前年同月比較　○＝前年比好転　△＝前年並み　●＝前年比悪化
2．鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「－」表示
3．小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計
4．公共工事保証請負額は西日本建設業保証分
5．ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

DKK 指標（2026年７月）



注）３ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、７ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。
※本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標について CI モデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK 指標（CI）によると、７月の指数は前月比＋1.53の118.9と上昇しました。項目別では、「雇用保険初回受給者」「小売店販売額」「人件費比率」「所定外労働時間数」「鉱工業生産指数」「宿泊客数」がプラスに寄与しました。指数の動きから基調判断は、先月と変わらず、「下方への局面変化」になります。